

11 深志神社

ふかしじんじゃ

宮村町2丁目

小笠原氏により暦応2年(1339)に宮村明神(祭神:建御名方富命、お諏訪さま)が現在地に創祀され、慶長19年(1614)、松本城の鎮護のために鎌田にあった北野天満宮(祭神:菅原道真公、天神さま)を宮村明神社北側に勧請し、宮村明神とともに並び祀られた。

城下女鳥羽川南の総鎮守として江戸時代を通じて城主の厚い保護を受け、表紙の絵図に見るように発展し、天保12年(1841)には深志神社と公称した。本殿は一間社流造で明治8年再建。拝段は入母屋造である。神楽殿は入母屋造で元拝殿であった建物で江戸時代に由来する。

例大祭は7月24日に宵祭り、25日に本祭りを斎行し、16基の舞台を所有する氏子町会が町と神社を往還して神社に奉納する天神祭が盛大に執り行われる。

舞台は元禄5年(1692)には造られていて、現在の舞台は明治以降に修復されたもので、松本平独特の様式などを踏襲し、深志神社と富士浅間社内の舞台庫に収められている。第二地区内では宮村1丁目、小池町、飯田町1丁目、飯田町2丁目の舞台が継承されている。それは、神興2基とともに精神的な連帯の核として町人の祭りの伝統の香りを漂わせる。



12 富士浅間社・金毘羅神社

ふしせんげんしゃ・こんびらじんじゃ

宮村町2丁目

富士浅間社は深志神社の西に隣接し、また天神馬場の東端に鎮座し、境内に金毘羅神社・多賀神社がある。江戸時代の記録によれば、富士浅間社は、元は里山辺の林城の山麓にあって小笠原氏が信仰しており、天文年中(1532~1555)小笠原長時のときに深志神社西の現在地に遷ったという。

宮村町1丁目・2丁目の氏神様であり、各家庭の繁栄と地域の守護、安産、金運、延命長寿の守護神である。社紋は小笠原氏の三階菱紋である。



① 長沢町(ながさわちょう)

深志神社の南、長沢川にそったあたりは晒屋と呼ばれていたが、明治四十年市町村制施行にもなつて筑摩村の一部が松本市に合併したのを機に長沢区とした。その後博労町東裏に、大正七年に筑摩部が開校、同八年に長野県工業試験場が開業した際に、町割りが行われ、常盤町・錦町・梅ヶ枝町・栄町などができ、長沢町はその一地域の町名となった。

② 向島(むこうじま)

この町は大正の初期、松本城天守閣より南向うを眺めた時、薄川の手前を東西に流れる長沢川南添いに、四方を川に囲まれた地形が島のように見えたことから、向島と命名された。当時、長沢川は現在の川幅よりも約三倍ほど広く、水は一面に漂い、川面にはアヒルなどが泳いでいた。

③ 天神小路(てんじんこうじ)

町人町・本町五丁目から東へ入る一町名。本町から天神の社が見通せるので天神小路と呼ばれた。なお、ここには小笠原秀政時代に京都右近に模した天神馬場が設けられていた。